

# 植樹で育てたコナラ 初めて伐採

## シイタケ菌打ち原木用に 30 本

令和 4 年 11 月 19 日（土）9 時から、「じゃぶじゃぶ池」北のコナラ林において、植樹して育てたコナラを初めて伐採



した。ここは芝生広場のすぐ東側、火打ち坂池周辺整備で更地になった竹林跡に平成 18（2006）年 3 月 26

日、飯村小 4 年生、二川小 5 年生、一般市民と会員などの手で初めて植樹した 100 本のコナラで、植えた苗木はどんぐりから育てた 30~50 cm の小さなものだった。それが皆の手で大きく育ち立派なコナラ林となった。

今回の伐採の目的はシイタケ菌打ちの原木として利用しようというものだが、間引いて伐る、すなわち間伐



することで残ったコナラ林の生育を促すと共に、切り株から新たな芽吹きをさせ 2 代目の木に生まれ変わらせる（萌芽更新という）ことも目的にしている。伐った木はシイタケ菌打ちの原木として利用するほか、チップーにかからない太い枝は燃料に、残った枝葉はチップにして森に撒き、再び豊かな森に甦らせるという里山利用の本来の姿がここにある。



しかしコナラの森は市の財産であり、伐った木から取る原木は会

が有料で市民参加イベントの菌打ち会に使うことは許されない。そこで今回はコナラ林伐採業務を会が市から受託し、採れた原木はイベントで無料提供することとなった。業務委託になったことから市との手続きが複雑で、西川会長が過去に業務経験があるから出来ることで、素人の集まりであるボラ

ンティアではとても手に負えないものである。伐採に際しては事前に詳細な検討がなされた。それは選別基準、本数、時期、原木採取、保管場所、チップ化作業、萌芽枝の処理など。作業については伐採手順、駒切作業手順、チェーンソーの取り扱い、作業時の服装、安全管理など。



伐採はチェーンソーによる伐木業務の資格を持った会員の手で行われた。11 月 19 日（土）に 18 本、20 日（日）に 2 本、22 日（火）に残る 10 本の合計 30 本が伐られた。伐る



人は安全装備を身に付け、ワイヤーとチルホールを用い、山側へ倒す方向を決めてゆっくりと安全に倒した。この

伐採は枝葉が付いたままで、この状態にしておよそ 2 カ月放置する、これを葉枯れ期間と言い、伐った木からゆっくりと水分を抜いてゆく。年が変わって令和 5 年 1 月下旬には枝葉を払い、70 本の原木を採取することになる。植樹をして 16 年、立派に育ったコナラが市民のお役に立てるのをこの目で確かめることが出来るのは、「岩屋緑地に親しむ会」が順調に活動を続けている証である。



【写真左上：2008 年 3 月 26

日の植樹会、写真左中：植樹をする家族、写真左下：伐採する木に黄色い印、写真右上：11 月 19 日市の立ち合いで伐採、写真右中：11 月 20 日伐採のデモンストレーション、写真下：葉枯れ期間約 2 カ月放置する】